

－「公文書で見る福岡市の水害」展示－

展示期間：平成25年9月4日～29日

展示場所：総合図書館2階文書資料室

1. はじめに

福岡市の「市政に関する意識調査」では、市に対する「好感度」「住みやすさ」「定住志向」は、90%～95%と非常に高い数値になっており、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「買い物の便利さ」「自然の豊かさ」「自然災害の少なさ」が市の都市環境等で高い満足度となっています。

このことは、今年5月の福岡市の人口150万人突破にもつながり、市が発展を続けるための大きな要因になっています。

意識調査において「自然災害の少なさ」の回答がありますが、記憶に新しいところでは、平成17年3月福岡県西方沖地震による建物の被害や、平成15年7月御笠川氾濫による博多駅周辺浸水など、大きな災害がなかったわけではありません。それらの経験を踏まえ、災害の復旧や予防に取り組み、住みやすい都市づくりに努めてきたことがこの回答につながっているのではないのでしょうか。

そこで今回、9月の防災週間(8/30～9/5)にちなみ、過去の昭和28年と昭和38年の水害の発生状況と、それに対する福岡市の対応等について歴史的公文書を通して見ることにしました。

※歴史的公文書……文書完結後 30 年を経過し、総合図書館へ移管された福岡市の公文書

2. 過去(戦後)の風水害の発生状況

「福岡市地域防災計画(資料編)」によると、家屋浸水等の大きな被害が昭和28年と昭和38年に発生しています。

昭和28年は、筑後川氾濫など県内に甚大な被害を及ぼしていますが、福岡市域では

総降水量	621.4mm(6/25～6/28)	
床上浸水	5,787戸	
床下浸水	25,215カ所	
堤防被害	112カ所	
橋梁被害	45カ所	となっています。

昭和38年は、福岡市域で大雨となり

総降水量	376.5mm(6/29～7/3)	
床上浸水	9,650戸	
床下浸水	18,100カ所	
堤防被害	48カ所	
橋梁被害	24カ所	となっています。

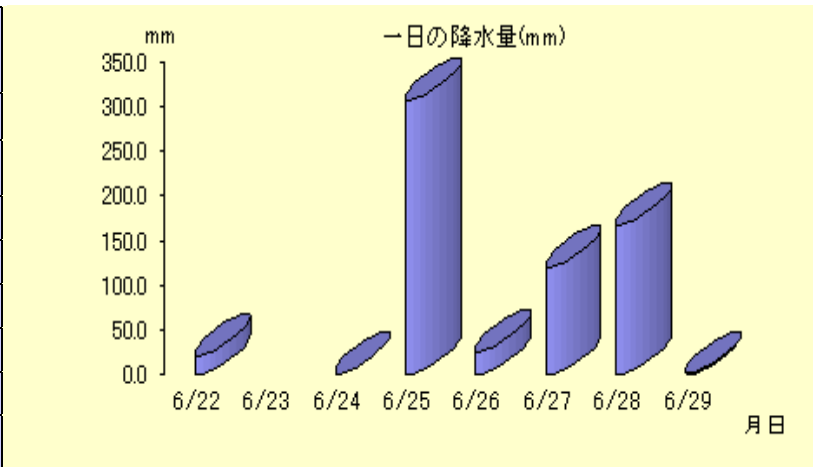
これ以降で床下浸水カ所が10,000カ所を超えたのは昭和48年のみとなっています。なお、博多駅周辺に浸水被害のあった平成11年6月と平成15年7月の総降水量は、平成11年(6/26～7/2)280.5mm、平成15年(7/18～7/21)123.0mm となっており、昭和28年、昭和38年の総降雨量を下回っていることから、上記2つの水害がいかに大きかったかがうかがえます。

3. 昭和28年の大雨の状況

6月22日に揚子江中流域で発生した低気圧が、発達しながら東北東に進み、23日午前に対馬海峡を通過した後、北上し、25日には沿海州に達しました。この低気圧が対馬海峡を通過したときに西日本で大雨となり、福岡では307.8mmの豪雨となりました。

6月25日の1時間雨量の最大は、63.3mmで、雨の降り方について人の受けるイメージでは「滝のように降る」状態とされています。

月日	一日の降水量(mm)
6/22	21.4
6/23	0
6/24	0.9
6/25	307.8
6/26	25.7
6/27	119.9
6/28	168.0
6/29	1.2



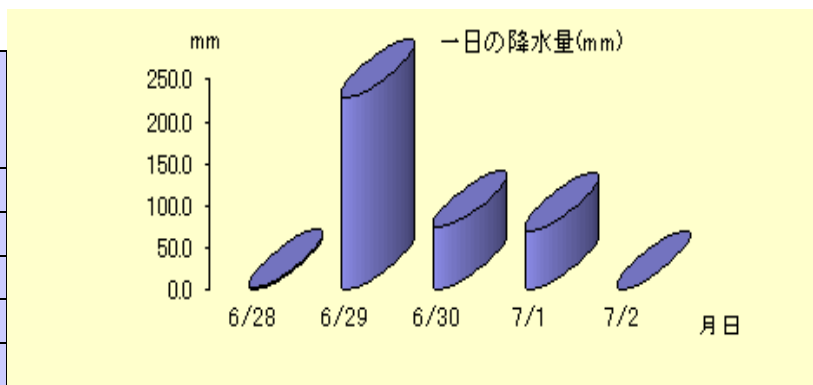
(※降水量データは 気象庁ホームページより)

4. 昭和38年の大雨の状況

朝鮮半島南部まで北上した梅雨前線が、6月29日夜から対馬海峡付近まで南下しました。地上天気図にははっきり現れていませんが、上層天気図には著しい気圧の谷が九州北部にあり大雨に見舞われました。

6月29日の1時間雨量の最大は、53.8mmとなっています。

月日	一日の降水量(mm)
6/28	3.7
6/29	229.3
6/30	73.4
7/1	69.9
7/2	0.4



(※降水量データは 気象庁ホームページより)

5. 災害救助法の適用申請、水害見舞い電報

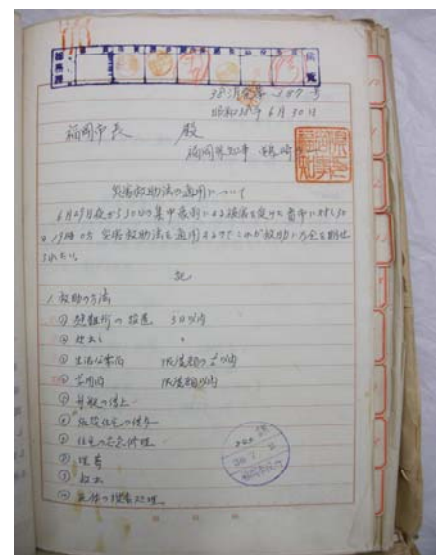
(1)災害救助法の適用申請

昭和38年6月29日夜半からの集中豪雨(30日 午前5時45分 大雨警報発令)による被害について、市は30日には福岡県に対して「災害救助法の適用について」申請を行い、同日付で福岡県知事から適用する旨の回答があります。

(資料番号 H7-永-0946 重要な災害対策関係書類)

※ 災害救助法

第二条 この法律による救助は、都道府県知事が……当該災害にかかり、現に救助を必要とする者に対して、これを行なう。



第二十三条 救助の種類は、次のとおりとする。

- 一 収容施設(応急仮設住宅を含む。)の供与
- 二 炊出しその他による食品の給与及び飲料水の供給
- 三 被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与
- 四 医療及び助産
- 五 災害にかかった者の救出
- 六 災害にかかった住宅の応急修理
- 七 生業に必要な資金、器具又は資料の給与又は貸与
- 八 学用品の給与
- 九 埋葬
- 十 前各号に規定するもののほか、政令で定めるもの

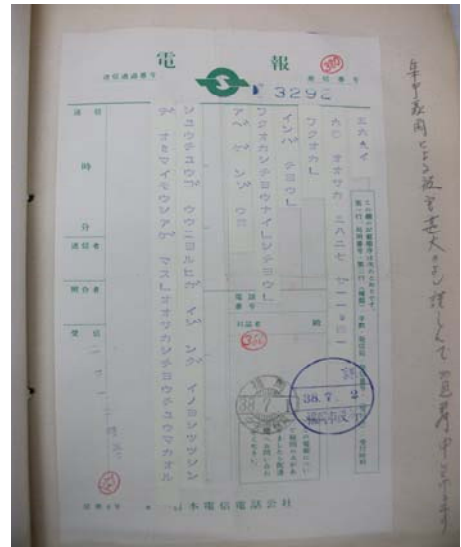
(2)水害見舞い電報

今日では通信手段の普及で見ることが少なくなったカタカナ電報文です。

「集中豪雨による被害甚大の由、謹んでお見舞い申し上げます。」(電報文)

展示物は大阪市長からのものですが、この他にも多くの自治体から見舞い文が届いており、東北大震災時に見られた日本人の思いやりが感じられます。

資料番号 H7-永-0947
重要な災害対策関係書類



6. 福岡市政だより(昭和28年8月、昭和38年7月)

昭和28年8月5日号の市政だよりでは、「水禍の痛手も和らぐ隣人愛」として、大阪の子供からの見舞状や沖縄からの見舞いと激励の便が寄せられたこと、水害義捐金の内容が掲載されています。

また、昭和38年7月4日号は「水害特集」として、大雨の6月29日からわずか5日後には市政だよりが印刷配布され、し尿、ごみ、道路、橋、下水道、河川復旧等、市民への迅速な広報活動がなされています。



(行政資料……福岡市政だより) S35～S39)

7. 水害の写真

歴史的公文書の簿冊に、封筒詰めで綴り込まれた写真を展示しています。

(1)昭和38年水害時に当時の阿部市長が被災状況を視察している写真



〔資料番号 H7-永-0949
重要な災害対策関係書類〕

(2)昭和38年市内各所の水害状況写真

市長室広報課にて集中豪雨による被害をまとめた写真集からの写真です。

巻頭に「6月30日5時45分大雨警報発令と同時に……福岡市災害対策本部を設置し、刻々増大する災害に対し消防団、地元市民の協力をえて、適時適用な措置を講ずるとともに……自衛隊の出動を要請、その応援により災害の拡大防止に市の総力を傾注し、……万全を期している。」と記されており、災害時の適切な対応を推し量ることができます。



(資料番号 H7-永-0950, 0951 重要な災害対策関係書類)

(3)昭和28年の水害の写真

「六月豪雨による 福岡市災害誌」作成のために集められた水害時の写真です。この災害誌の序において、当時の小西市長は「災害の到来する時期と被害の程度とは前もってほとんど知ることができないので……備あれば憂なしという言葉のように……災害の到る時は、被害を最少限度にとどめるようにつとめて行きたい」と述べ、日頃から防災に努めることを披瀝しています。



〔行政資料 93-FY-28
六月豪雨による福岡市災害誌〕

8. 水防訓練の写真

昭和47年6月に市内の河川敷で行われた水防訓練の写真です。水難者の救助訓練や堤防の氾濫を防ぐための杭打ち、土のう積みの様子です。多くの人たちが参加し、ワラで編んだ袋に土を入れて土のうとして積み上げています。



(資料番号 47123 広報用ネガフィルムより)

9. 「アジア防災フェア福岡'98」ポスター

平成10年10月14日から16日まで、アジアの防災ネットワークづくりを推進するために「第20回アジア消防長協会(IFCAA)総会」が福岡市で開催されました。

それに併せて福岡ドームにおいて開催された時のポスターです。

アジア地域の消防発展の一助としての福岡市消防が活動していることがうかがえます。

※ アジア消防長協会(International Fire Chiefs' Association of Asia)

アジア各国の消防長が国際的に融和協調して、人命、財産等を火災から保護する技術及び手段の研究を促進させるとともに、消防情報を交換し、アジア地域における消防の全般的発展に資することを目的とする。(協会ホームページより)



〔資料番号 0741
アジア防災フェア福岡'98 ポスター〕